

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-エ	文化の発信・交流
施策	①国内外における文化交流の推進と発進力の強化	
(施策の小項目)	○沖縄文化を軸とした世界との交流・発信	
主な取組	沖縄芸能活用プロモーション事業	実施計画 記載頁 56
対応する 主な課題	○沖縄は魅力的な文化資源に恵まれているが、こうした文化資源の魅力を効果的に発信していくための基盤が不十分であり、発進力の強化が課題である。	

1 取組の概要(Plan)

取組内容	芸能面から沖縄の魅力を発信し、海外からの観光誘客をはかるため、沖縄の芸能団体等を海外に派遣し公演を実施する。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
	14回 海外公演				→		
	組踊など厳選した沖縄芸能の歌舞団を海外に派遣して公演を実施					→	県
担当部課	文化観光スポーツ部 文化振興課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成27年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
文化観光戦略推進事業	170,733	162,521	海外重点市場として、台湾(台北、高雄)、香港、中国(北京、上海)、韓国(ソウル)の4ヶ国(地域)、6都市、海外新規市場として、フランス(アビニョン)、イギリス(エジンバラ)の2ヶ国、2都市、計6カ国(地域)8都市で、沖縄の古典舞踊や創作舞踊、地域に根付いている伝統芸能や歌舞劇などの舞台公演を実施した。 当該公演とあわせて、観劇者を対象としたアンケート調査や現地旅行社へのヒアリング調査を実施しニーズ把握を行うとともに、舞台公演の旅行商品化に向けた意見交換を行った。	一括交付金 (ソフト)
活動指標名			計画値	実績値
海外公演回数			14回	53回
推進状況	推進状況の判定根拠及び平成27年度取組の効果			
順調	海外向けプロモーションの展開と連携し、芸能公演を海外で実施する事で、文化・芸能面から沖縄の魅力を発信する取り組みを行った。 のべ8都市で53回の公演を実施し、4,700人以上の観客動員があった。また、観客アンケート調査・観光関連事業者等へインタビューを実施し、諸都市の一般観客の志向・ニーズなどの情報収集を行うことができた。 また、中国公演を鑑賞した旅行社からの要望を受け、団体旅行のプログラムの一部として県内で実施する舞台公演を試験的に組み込み、県内での公演鑑賞に繋げることができた。 以上のことより、事業は順調に進められている。			

様式1(主な取組)

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成28年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
文化観光戦略推進事業	83,342	海外現地において人気がある日本旅行サイト等のライターを県内で実施する公演に招聘し、当該サイトへの記事掲載等を行い海外での情報発信を行う。	一括交付金(ソフト)

(3) これまでの改善案の反映状況

平成27年度の取組改善案	反映状況
<p>①県内で実施する公演を海外でも派遣公演として上演し、海外マーケットと県内公演を直接リンクさせることにより、外国人観光客の誘客を図る。</p> <p>②派遣団体の選定期間・方法等を検討し、前年度中に選定するなど、早期に選定することにより、十分な事業準備期間を確保し、より効果的なプロモーションを実施する。</p> <p>③海外での観光プロモーション(旅行博出展等)との連携して公演を実施する等、海外事務所やOCVB等関係機関と連携して事業を実施し、より事業効果を高める。</p>	<p>①県内で実施する公演を海外派遣公演として上演することで、中国からの団体旅行者(2団体、153名)の公演鑑賞に繋げることができた。</p> <p>②③派遣団体を早期に選定したが、県内公演も実施する中で海外公演も並行して実施するため、出演者のスケジュール確保や海外公演の会場確保等、日程調整をスムーズに行うことができなかったため、海外での観光プロモーション関連イベント等との連携した公演実施には至らなかったが、海外事務所と連携した情報発信の他、物産関連イベントと連携したプロモーションを実施することができた。</p>

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
—	—	—	—	—	—
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
—	—	—	—	—	—
状況説明	<p>アヴィニョン及びエジンバラの演劇祭においては、H25、26年度に引き続き現地メディア(批評紙)による一定の評価(4つ星、5つ星評価)を受けており、沖縄芸能が浸透してきている。</p> <p>また、海外公演を鑑賞した旅行社からの要望を受け、海外からの団体旅行プログラムに試験的に県内での舞台公演鑑賞を組み込む等の取り組みも行われ、海外観光客に向けた舞台公演の旅行商品化に係る一定の成果も現れている。</p>				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境の変化)

<p><u>○内部要因</u></p>
<p><u>○外部環境の変化</u></p> <p>・台湾や韓国をはじめアジア地域を中心に、海外からの入域観光客数が増加傾向にある。</p>

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

<p>・毎年度、計画回数以上の公演を実施している。また、平成28年までの計画公演回数は70回(14公演×5年)となっているが、これまでに190回の海外公演を実施し計画回数を大幅に上回っており、芸能団体を派遣しての沖縄の文化・伝統芸能の発信は十分に行ってきたため、芸能団体の海外派遣のあり方も含め、海外観光客誘客に向けた沖縄の文化・芸能を活用したプロモーションのあり方について検討を行う必要がある。</p>
--

4 取組の改善案(Action)

- ・アジア地域を中心に堅調に伸びている海外からの観光客に向けて、新しい観光コンテンツとして県内で実施している舞台公演の鑑賞促進を図るための取り組みを進める。
- ・具体的には、芸能団体を海外へ派遣し公演を実施することに替えて、海外現地において人気がある日本旅行サイト等のライターを県内で実施する公演に招聘し、当該サイトへの記事掲載等を行い海外での情報発信を行う。

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-エ	文化の発信・交流		
施策	①国内外における文化交流の推進と発進力の強化			
(施策の小項目)	○沖縄文化を軸とした国内外との交流・発信			
主な取組	世界エイサー大会開催支援事業	実施計画 記載頁	56	
対応する 主な課題	文化は交流により育まれ、互いの文化を理解しあうことにより発展するため、国際的な文化交流イベントから草の根レベルの交流活動まで幅広い取り組みを強化していくことが求められている。			

1 取組の概要(Plan)

取組内容	エイサーを新たな観光資源として、さらに魅力を高め、本県の観光、文化振興に結びつけていくとともに、青年相互の交流と青少年の健全育成を図る事を目的に、エイサー発祥の地、沖縄で県内外、海外のエイサー団体を集めた世界大会を実施する。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
	負担金の 拠出	民間主体による大会開催					県 実行委員 会
担当部課	文化観光スポーツ部文化振興課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成27年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
エイサー普及啓発事業	21,600	18,606	①エイサー指導員の県外、海外派遣 ②県内エイサー団体の県外、海外派遣 ③県外、海外エイサー団体の招聘 ④カンファレンス及びワークショップ	県単等
活動指標名			計画値	実績値
-			-	-
推進状況	推進状況の判定根拠及び平成27年度取組の効果			
順調	下記のとおり事業を実施し、エイサーの魅力を国内外に発信し、交流を推進したことから、順調とした。 ①エイサー指導員派遣:ジャカルタほか4カ国、高知市ほか1市 ②県内エイサー団体派遣:中国ほか1カ国、京都市ほか6市 ③県外、海外エイサー団体招聘:カナダほか2カ国、宮崎県、熊本県 ④パーランクーづくりや指笛教室等のワークショップ			

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成28年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
エイサーエキスポ委託事業費	9,330	世界のウチナンチュ大会において、海外や県外の団体も参加し、伝統と創作のエイサーを一挙に観覧できるプログラムやエイサーの起源を学ぶ歴史展及びエイサー等を通じた体験型文化交流を実施することにより、国内外における文化交流の推進と発信力の強化を図る。	一括交付金 (ソフト)

様式1(主な取組)

(3) これまでの改善案の反映状況

平成27年度の取組改善案	反映状況
①市町村との協働などの取り組み等を検討し、エイサーを通じた交流・発信を強化する。	①浦添市と連携し、組踊祭りと同時開催し新たな客層へエイサーを発信した。
②ボランティアや参加団体との協力体制を構築する。	②エイサー体験ワークショップやカンファレンスを通じて、エイサー大会の将来像や方向性について議論を行い、交流推進を図った。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
世界エイサー大会の来場者	64,900人 (23年度)	2,600人 (27年度)	100,000人	△ 62,300	(〇〇年)
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
	(〇〇年)	(〇〇年)	(〇〇年)		(〇〇年)
状況説明	基準年となった平成23年度は、世界のウチナーンチュ大会との連携開催であったことから、集客の面で高い相乗効果が得られていたが、平成25年度から事務局を県主導の実行委員会から民間(文化振興会)へうつすとともに、開催場所をセルラースタジアムから国立劇場おきなわに移した。平成28年度は世界のウチナーンチュ大会の主要イベントとして、県立武道館において開催することでエイサーの魅力発信と文化交流を促進させ、目標値の達成を図る。				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境の変化)

<p>○内部要因</p> <p>世界エイサー大会については平成22年度から平成24年度までの3年間は県主導による実行委員会を実施し、「エイサーを活用した新たなイベントの創出」、「エイサーの魅力を国内外へ発信」、「エイサー団体の相互交流」といった事業目的を一定程度達成した。平成25年度からは民間主導型に移行し、県として側面的な支援を行っている。</p>
<p>○外部環境の変化</p>

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

<p>H28年度は世界のウチナーンチュ大会主要イベントとして、EisaEXPO2016の実施が予定されているため大幅な集客増が見込める。次年度以降の開催のあり方については、これまで培ってきた国内外のネットワークを活用した推進を図るなど事務局と検討する。</p>
--

4 取組の改善案(Action)

<p>過去6年間の事業実施において国内外におけるエイサーを通じた交流のネットワークを構築してきた。今後はこのネットワークを活用した文化交流の推進と発信の手法を検討していく。</p>
--

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-エ	文化の発信・交流		
施策	①国内外における文化交流の推進と発信力の強化			
(施策の小項目)	○沖縄文化を軸とした世界との交流・発信			
主な取組	沖縄国際アジア音楽祭の開催支援	実施計画 記載頁	56	
対応する 主な課題	○沖縄は魅力的な文化資源に恵まれているが、こうした文化資源の魅力を効果的に発信していくための基盤が不十分であり、発信力の強化が課題である。			

1 取組の概要(Plan)

取組内容	沖縄国際アジア音楽祭については、沖縄の音楽を文化産業として発展させることを目的として、様々なライブステージイベント等を開催している。さらなる目的達成のため、沖縄の音楽産業の発展に関する音楽カンファレンスを音楽祭と連携して開催する等し、沖縄音楽産業の効果的な振興を図る。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
	沖縄音楽産業の振興に資するシンポジウムの開催等による支援 →						県
担当部課	文化観光スポーツ部 文化振興課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成27年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
沖縄文化活性化・創造発信支援事業	148,485	139,131	沖縄文化活性化・創造発信支援事業における補助事業の一つとして、沖縄音楽の海外展開の可能性を検討するカンファレンス等に対する支援を行うことにより沖縄音楽産業の振興につなげた。	—
活動指標名			計画値	実績値
沖縄国際アジア音楽祭と連携した沖縄音楽産業の発展に資するシンポジウムの開催			1回	1回
推進状況	推進状況の判定根拠及び平成27年度取組の効果			
順調	アジア各都市からの参加者による各地のフェス、現地の音楽状況についてのプレゼンテーションや沖縄音楽の海外展開の可能性を検討するカンファレンス等に対する支援を行うことにより沖縄音楽産業の振興につなげることができたことから順調とした。			

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成28年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
沖縄文化活性化・創造発信支援事業	133,185	沖縄の音楽産業の発展に関する事業を支援することにより沖縄音楽産業の効果的な振興を図る。	一括交付金 (ソフト)

様式1(主な取組)

(3) これまでの改善案の反映状況

平成27年度の取組改善案	反映状況
<p>①沖縄の音楽を文化産業として発展させるという沖縄国際アジア音楽祭のさらなる目的達成に向け、県でも、開催事務に関する側面支援や、沖縄音楽全体の支援につなげていく。</p> <p>②実行委員会が今後、より発展的な取り組みに着手できるよう、文化・観光関連事業の情報提供を行う等、連携を図っていくとともに、来場者数増加に向けて、同音楽祭への側面的支援を行っていく。</p>	<p>①②国際アジア音楽祭来場者数増加には至らなかったものの、アジア各都市からの参加者による各地のフェス、現地の音楽状況についてのプレゼンテーションや沖縄音楽の海外展開の可能性を検討するカンファレンス等に対する支援を行うことにより沖縄音楽全体の支援につなげることができた。</p>

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
沖縄国際アジア音楽祭の来場者数	36,000人 (23年度)	9,000人 (27年)	45,000人	△27,000人	
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
状況説明	<p>沖縄国際アジア音楽祭については、県主導により平成21年度から平成23年度まで3年間にわたり事業を実施してきたが、平成24年度からは県から民間へ運営が移管され、沖縄市を中心に実施されている。</p>				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境の変化)

<p>○内部要因</p> <p>・沖縄国際アジア音楽祭については、県から事業を引き継ぐ形で、平成24年度から民間(musix実行委員会:委員長・沖縄市観光協会会長、事務局・NPOコザまち社中)で事業を実施している。</p>
<p>○外部環境の変化</p>

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

<p>・県として沖縄国際アジア音楽祭へ側面的支援を行ってきたが、参加人数の減少等から、平成28年度は見直しのため開催を見送ることとなり、成果指標の達成は困難な状況である。</p>

4 取組の改善案(Action)

<p>・沖縄の音楽産業の発展に資する取組みのあり方を検討していく。</p>

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-エ	文化の発信・交流		
施策	①国内外における文化交流の推進と発信力の強化			
(施策の小項目)	○沖縄文化を軸とした世界との交流・発信			
主な取組	外国人観光客に向けた文化観光コンテンツのセールスプロモーション	実施計画 記載頁	56	
対応する 主な課題	○沖縄は魅力的な文化資源に恵まれているが、こうした文化資源の魅力を効果的に発信していくための基盤が不十分であり、発信力の強化が課題である。			

1 取組の概要(Plan)

取組内容	芸能面から沖縄の魅力を発信し、海外からの観光誘客をはかるため、沖縄の芸能団体等を海外に派遣し公演を実施する。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
			来訪した外国人観光客に向けた効果的なセールスプロモーションの実施				県
	海外の各種拠点を通じた発地特性を踏まえたセールスプロモーションの実施					→	
	海外の主要観光関連媒体への露出強化						
担当部課	文化観光スポーツ部 文化振興課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成27年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
文化観光戦略推進事業	170,733	162,521	海外重点市場として、台湾(台北、高雄)、香港、中国(北京、上海)、韓国(ソウル)の4ヶ国(地域)、6都市、海外新規市場として、フランス(アビニョン)、イギリス(エジンバラ)の2ヶ国、2都市、計6カ国(地域)8都市で、沖縄の古典舞踊や創作舞踊、地域に根付いている伝統芸能や歌舞劇などの舞台公演を実施した。 当該公演とあわせて、観劇者を対象としたアンケート調査や現地旅行社へのヒアリング調査を実施しニーズ把握を行うとともに、舞台公演の旅行商品化に向けた意見交換を行った。	一括交付金 (ソフト)
活動指標名			計画値	実績値
海外公演回数			14回	53回

様式1(主な取組)

推進状況	推進状況の判定根拠及び平成27年度取組の効果
順調	<p>海外向けプロモーションの展開と連携し、芸能公演を海外で実施する事で、文化・芸能面から沖縄の魅力を発信する取り組みを行った。</p> <p>のべ8都市で53回の公演を実施し、4,700人以上の観客動員があった。また、観客アンケート調査・観光関連事業者等へインタビューを実施し、諸都市の一般観客の志向・ニーズなどの情報収集を行うことができた。</p> <p>また、中国公演を鑑賞した旅行社からの要望を受け、団体旅行のプログラムの一部として県内で実施する舞台公演を試験的に組み込み、県内での公演鑑賞に繋げることができた。</p> <p>以上のことより、事業は順調に進められている。</p>

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成28年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
文化観光戦略推進事業	83,342	海外現地において人気がある日本旅行サイト等のライターを県内で実施する公演に招聘し、当該サイトへの記事掲載等を行い海外での情報発信を行う。	一括交付金(ソフト)

(3) これまでの改善案の反映状況

平成27年度の取組改善案	反映状況
<p>①ツアー組成に要する期間を踏まえた上で、海外公演及び県内公演の実施時期を設定し、海外からの観光客誘客に繋げる。</p> <p>②派遣団体の選定期間・方法等を検討し、前年度中に選定するなど、早期に選定することにより、十分な事業準備期間を確保し、より効果的なプロモーションを実施する。</p> <p>③海外での観光プロモーション(旅行博出展等)との連携して公演を実施する等、海外事務所やOCVB等関係機関と連携して事業を実施し、より事業効果を高める。</p>	<p>①中国公演を鑑賞した旅行社からの要望を受け、団体旅行のプログラムの一部として県内で実施する舞台公演を試験的に組み込み、中国からの団体旅行者(2団体、153名)の県内での公演鑑賞に繋げることができた。</p> <p>②③派遣団体を早期に選定したが、県内公演も実施する中で海外公演も並行して実施するため、出演者のスケジュール確保や海外公演の会場確保等、日程調整をスムーズに行うことができなかったため、海外での観光プロモーション関連イベント等との連携した公演実施には至らなかったが、海外事務所と連携した情報発信の他、物産関連イベントと連携したプロモーションを実施することができた。</p>

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
—	—	—	—	—	—
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
—	—	—	—	—	—
状況説明	<p>アヴィニョン及びエジンバラの演劇祭においては、H25、26年度に引き続き現地メディア(批評紙)による一定の評価(4つ星、5つ星評価)を受けており、沖縄芸能が浸透してきている。</p> <p>また、海外公演を鑑賞した旅行社からの要望を受け、海外からの団体旅行プログラムに試験的に県内での舞台公演鑑賞を組み込む等の取り組みも行われ、海外観光客に向けた舞台公演の旅行商品化に係る一定の成果も現れている。</p>				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

○外部環境の変化

・台湾や韓国をはじめアジア地域を中心に、海外からの入域観光客数が増加傾向にある。

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

・毎年度、計画回数以上の公演を実施している。また、平成28年までの計画公演回数は70回(14公演×5年)となっているが、これまでに190回の海外公演を実施し計画回数を大幅に上回っており、芸能団体を派遣しての沖縄の文化・伝統芸能の発信は十分に行ってきたため、芸能団体の海外派遣のあり方も含め、海外観光客誘客に向けた沖縄の文化・芸能を活用したプロモーションのあり方について検討を行う必要がある。

4 取組の改善案(Action)

・アジア地域を中心に堅調に伸びている海外からの観光客に向けて、新しい観光コンテンツとして県内で実施している舞台公演の鑑賞促進を図るための取り組みを進める。

・具体的には、芸能団体を海外へ派遣し公演を実施することに替えて、海外現地において人気がある日本(沖縄)旅行サイト等のライターを県内で実施する公演に招聘し、当該サイトへの記事掲載等を行うなど、海外での情報発信を継続して実施する。

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-エ	文化の発信・交流
施策	①国内外における文化交流の推進と発信力の強化	
(施策の小項目)	○沖縄文化を軸とした世界との交流・発信	
主な取組	沖縄伝統空手道継承・発展事業	実施計画 記載頁 57
対応する 主な課題	○沖縄は魅力的な文化資源に恵まれているが、こうした文化資源の魅力を効果的に発信していくための基盤が不十分であり、発信力の強化が課題である。	

1 取組の概要(Plan)

取組内容	沖縄伝統空手道を保存・継承・発展させるため、国際セミナーの開催や指導者の海外派遣等を実施し、国内外での沖縄伝統空手道の普及・啓発並びに世界の空手愛好家の来訪促進を図るとともに、指導者・後継者の育成を図る。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
	指導者・後継者の育成					→	県
	沖縄伝統空手道の普及・拡大						
担当部課	文化観光スポーツ部 空手振興課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成27年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
沖縄伝統空手道継承・発展事業	45,207	43,230	沖縄伝統空手・古武道国際セミナーを7月、11月、1月の計3回実施したほか、空手指導者を米国ニューヨークに派遣し、現地でのセミナー開催及び情報発信を行った。 また、「空手発祥の地・沖縄」を広く周知するため、10月25日の空手の日に記念演武祭を開催した。 さらに、有識者によるブランディング検討委員会を3回開催し、文化的価値の確立、今後の戦略を検討した。	一括交付金 (ソフト)
活動指標名			計画値	実績値
沖縄伝統空手・古武道国際セミナーの開催			3回	3回
推進状況	推進状況の判定根拠及び平成27年度取組の効果			
順調	平成27年度は、沖縄伝統空手・古武道国際セミナーを3回開催し、17の国・地域(日本を含む)から209名の参加があった。また、4名の指導者を海外に派遣し、空手セミナー及び演武公演(広報・交流課事業と連携)を開催するとともに、10月25日の空手の日には、国際通りのトランジットモールを活用して2,000名超の周知演武会を開催した。さらに、ブランディング検討委員会を開催し、沖縄伝統空手の発信戦略を検討するとともに、空手シンポジウムを開催し、ユネスコ無形文化遺産登録の可能性を探った。 これにより、空手発祥の地・沖縄の世界への発信、沖縄伝統空手道・古武道の普及・拡大及び指導者・後継者の育成を図ることが出来た。			

様式1(主な取組)

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成28年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
沖縄伝統空手道継承・発展事業	72,147	<p>沖縄伝統空手・古武道国際セミナーを開催するほか(8月の1回を予定)、空手指導者を海外に8名(4名×2カ国)、国内に4名(2名×2地域)派遣し、現地でのセミナー開催、メディア等とおした情報発信を行う。</p> <p>空手の日(10月25日)関連では、10月23日に記念演武祭を開催し、集団演武のギネス世界記録に挑戦し、広く国内外に沖縄伝統空手を発信していく。</p> <p>また、中長期的な空手振興に関する振興ビジョンを、今後策定していくこととし、平成28年度中に沖縄伝統空手の現状を把握するための実態調査を行う。</p>	一括交付金(ソフト)

(3) これまでの改善案の反映状況

平成27年度取組改善案	反映状況
①イベント情報の早期周知、空手関係団体ホームページへの情報掲載、SNSを活用等により情報発信を強化するなどし、広報周知の改善を図るとともに、空手界と協力して情報発信ネットワークの構築に努める。	イベント実施に係る委託契約、関係団体との調整等を年度当初から取り組むとともに、県及び関係団体等のホームページを活用し、イベントの周知徹底を図った。それにより、国際セミナーの参加者数も増加している。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28年度目標値	改善幅	全国の現状
県外・海外からの空手関係者来訪数	80 (H24年度)	736 (H27年度)	1,000	656人	-
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
-	-	-	-		-
状況説明	<p>県外・海外からの空手関係者来訪は、県主催の国際セミナー及び民間主催セミナー(県後援)の参加者数により確認した。今後は沖縄空手会館の供用開始(平成29年3月)に伴い、空手関係者(県外、海外)の来訪者動向が把握できることから、当該来訪者数も加えて実数の把握に努めたい。</p> <p>平成27年度は、沖縄伝統空手・古武道国際セミナーの開催、指導者の海外派遣及び空手の日記念演武祭を開催するなどし、沖縄伝統空手道・古武道の普及と空手発祥の地・沖縄の発信に努め、国内外の空手愛好家の来訪促進を図った。</p> <p>引き続き本事業の取組みを推進するとともに、平成28年度中には沖縄空手会館が供用開始されることから、沖縄空手会館を拠点として空手発祥の地・沖縄を世界に発信するとともに、国際イベント等の開催により受入体制の強化を図ることにより、国内外の空手愛好家の来訪を促進できるものと考えている。</p>				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・国際セミナーは参加者数の増加が見られるが、沖縄伝統空手の取組について、広く認知されている状況とはいえない。

○外部環境の変化

・平成28年度内には沖縄伝統空手を国内外に発信する拠点となる「沖縄空手会館」が開館することとなり、沖縄伝統空手の振興に向けた本格的な事業展開がスタートする。
・2020年東京オリンピックにおいて、空手が正式種目として採用されたことから、「空手発祥の地・沖縄」を世界に発信する絶好の機会と捉え、より一層効果的な事業の推進に取り組む。

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

・沖縄伝統空手の取組について、広く認知されている状況とはいえ、情報発信の方法や広報媒体の活用などについて検討が必要である。

・平成28年には沖縄伝統空手の発信拠点となる沖縄空手会館が完成する。空手界、行政等が連携して沖縄伝統空手を広く発信し、普及・発展を図っていくために、更なる事業展開策を検討し、沖縄伝統空手の振興を一層進める必要がある。

4 取組の改善案(Action)

・イベント情報の早期周知、空手関係団体ホームページへの情報掲載、SNSの活用等により情報発信を強化するなどし、広報周知の改善を図るとともに、空手界と協力して情報発信ネットワークの構築に努める。

・平成28年度には沖縄伝統空手の発信拠点となる沖縄空手会館が開館することとなり、沖縄伝統空手の振興に向けた本格的な事業展開がスタートする。空手界、行政等が連携して沖縄伝統空手を広く発信し、普及・発展を図っていけるよう、空手の実態調査を行うとともに、一層の振興に向けた事業施策を検討する。

様式1(主な取組)

課長名 山川哲男 担当班 空手振興班 担当者名 上原善彦 内線IP 2582

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-エ	文化の発信・交流
施策	①国内外における文化交流の推進と発信力の強化	
(施策の小項目)	○文化発信交流拠点の形成	
主な取組	「沖縄空手会館」の整備	実施計画 記載頁 57
対応する 主な課題	○沖縄は魅力的な文化資源に恵まれているが、こうした文化資源の魅力を効果的に発信していくための基盤が不十分であり、発信力の強化が課題である。	

1 取組の概要(Plan)

取組内容	沖縄伝統空手を独自の文化遺産として保存・継承・発展させるとともに、国際大会等の開催や空手研修生の受入体制の強化を図り、「空手発祥の地・沖縄」を国内外に発信するための拠点として、沖縄空手会館を建設する。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
	基本計画						県
	測量・土質調査						
	基本設計	実施設計					
	建設工事等		供用開始				
担当部課	文化観光スポーツ部 空手振興課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成27年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
沖縄空手会館建設事業	2,833,839 (1,064,908)	1,366,932 (732,120)	沖縄空手会館武道棟の工事に着手した。 展示資料の調査収集検討を行った。 管理条例の整備を行った。	一括交付金 (ソフト)
活動指標名			計画値	実績値
-			-	-
推進状況	推進状況の判定根拠及び平成27年度取組の効果			
やや遅れ	当初、平成27年度の供用開始を目指していたが、相続手続きのされていない共有地の購入等に不測の時間を要し、本体工事の着手が平成26年度末となったことから、平成27年度は、平成28年度供用開始を目標に取り組んできた。条例の整備、関係機関との調整を進め、工事の現況から平成28年度中の供用開始が充分に見込まれる状況となっているが、当初設定した供用開始時期から遅れていることから、やや遅れとした。			

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成28年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
沖縄空手会館建設事業	2,599,330 (1,423,957)	平成27年度に引き続き建設工事を進める。 備品の購入及び設置、展示資料の収集及び設置を行う。 指定管理者を選定し、供用を開始する。 利用促進に向けた広報やイベントの実施する。	一括交付金 (ソフト)

様式1(主な取組)

(3) これまでの改善案の反映状況

平成27年度の取組改善案	反映状況
①平成27年度は、展示棟工事、武道棟工事を進め、それと平行して、空手会館の展示設計を完了させる。沖縄空手会館の管理運営、展示品調査収集業務についても推進し、利用者に良好なサービスが提供できるよう取り組んでいくとともに、平成28年度の供用開始に向け事業を円滑に推進していく。	①展示棟工事、武道棟工事を進め、常設展等に係る展示設計を完了させた。 ②管理運営については、条例を整備し、指定管理者を導入する準備を進めた。 ③展示品調査収集業務については、国内外の関係者・関係団体等のもとへ積極的に出向き、平成28年度の供用開始に向け取り組んだ。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28年度目標値	改善幅	全国の現状
県外・海外からの空手関係者来訪数	80 (H24年度)	736 (H27年度)	1000	656人	-
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
-	-	-	-		-
状況説明	県外・海外からの空手関係者来訪は、県主催の国際セミナー及び民間主催セミナー(県後援)の参加者数により確認した。今後は沖縄空手会館の供用開始(平成29年3月)に伴い、空手関係者(県外、海外)の来訪者動向が把握できることから、当該来訪者数も加えて実数の把握に努めたい。				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境の変化)

<p>○内部要因</p> <ul style="list-style-type: none"> ・整備を進めるにあたり、豊見城市等、関係機関との調整が必要となる。 ・供用開始に向けた指定管理者選定等の作業が必要となる。 ・活用促進のための事業展開が必要となる。 <p>○外部環境の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・整備敷地の軟弱地盤対策等により、一部、工事の遅れが生じている。
--

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

<ul style="list-style-type: none"> ・随時、工程の進捗を確認し、供用開始までのスケジュール管理を密に行う必要がある。
--

4 取組の改善案(Action)

<ul style="list-style-type: none"> ・工程の進捗を確認していく。 ・沖縄空手会館の指定管理者を選定する。 ・平成28年度中の供用開始を目指す。

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-エ	文化の発信・交流		
施策	①国内外における文化交流の推進と発進力の強化			
(施策の小項目)	○文化発信交流拠点の形成			
主な取組	文化発信交流拠点の整備	実施計画 記載頁	57	
対応する 主な課題	○沖縄は魅力的な文化資源に恵まれているが、こうした文化資源の魅力を効果的に発信していくための基盤が不十分であり、発信力の強化が課題である。			

1 取組の概要(Plan)

取組内容	沖縄独自の文化の保全・継承や芸術文化創造活動等を持続可能なものとするため、グローバルな文化の受信・発信機能、プロフェッショナルな芸能の創造・継承機能、専門人材の育成機能を持つ文化発信交流拠点を整備する。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
	構想策定	文化発信交流拠点の整備				→	県
担当部課	文化観光スポーツ部 文化振興課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成27年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
文化発信交流拠点整備事業	905	207	これまでの施設整備に関する検討において、整備エリアを国立劇場おきなわ周辺エリアと決定した。当該検討結果を踏まえ、エリア内における施設整備場所の絞り込みについて浦添市をはじめとした関係機関との調整を行った。	県単等
活動指標名			計画値	実績値
-			-	-
推進状況	推進状況の判定根拠及び平成27年度取組の効果			
大幅遅れ	施設整備を検討しているエリア内にある組踊公演は浦添市が整備し都市計画決定を受けた都市緑地となっているため、施設整備をするための条件整理等について、浦添市をはじめとした関係機関との調整に時間を要している。			

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成28年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
文化発信交流拠点整備事業	8,610	引き続き関係機関との調整を行い、早期に整備場所を決定する。整備場所の決定後は、設計業務の発注に向けて、整備場所にあわせた施設規模や形状、スタジオや稽古場の規模・配置等、より詳細な施設整備計画の検討を行う。	県単等

様式1(主な取組)

(3) これまでの改善案の反映状況

平成27年度の取組改善案	反映状況
①施設整備場所の用途が立たないことには、関係機関との具体的な意見交換や調整を進めることが出来ないため、これまで以上に浦添市との連携を密に図り、一体的に取り組みを進める。	①浦添市の都市計画及び公園整備関係部署をはじめ、当該事業の関連部署を交えて調整を行ってきたが、整備場所の検討に時間を要している。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
—	—	—	—	—	—
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
—	—	—	—	—	—
状況説明	施設整備基本計画における施設整備エリアの都市計画の変更及び代替緑地の確保等に係る調整に時間を要しているため、未だ設計業務に着手していない。				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境の変化)

<p><u>○内部要因</u></p> <p>・施設整備基本計画において施設整備エリアとして決定した組踊公園は、浦添市が整備し都市計画決定を受けた都市緑地であることから、都市計画の変更及び代替緑地の確保等に係る調整に時間を要している。</p>
<p><u>○外部環境の変化</u></p>

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

<p>・計画変更手続きの実施主体は浦添市であるものの、変更手続きがスムーズに行えるよう、浦添市と一体となり変更手続きに取り組む必要がある。</p>

4 取組の改善案(Action)

<p>・浦添市をはじめとした関係機関とのより一層の連携を図り、一体的に取り組みを進め、早期に施設整備場所の決定を行う。</p>

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-エ	文化の発信・交流	
施策	①国内外における文化交流の推進と発信力の強化		
(施策の小項目)	○文化発信交流拠点の整備		
主な取組	琉球王国文化遺産集積・再興事業	実施計画 記載頁	57
対応する 主な課題	○沖縄は魅力的な文化資源に恵まれているが、こうした文化資源の魅力を効果的に発信していくための基盤が不十分であり、発信力の強化が課題である。		

1 取組の概要(Plan)

取組内容	戦災等により失われた8分野の工芸品制作のティーワジャ(手わざ)など王国時代の精緻で至高の技の世界を現代に蘇らせ、世界に誇る沖縄の手わざの力をモノを通して国内外へ発信し、琉球王国文化をブランドとした文化観光拠点として沖縄をアピールする。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
				資料調 査・設計	制作業務	→	県
担当部課	文化スポーツ部 文化振興課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成27年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
琉球王国文化遺産集積・再興事業	41,529	39,993	8分野(絵画、木彫、石彫、漆芸、陶芸、染織、金工、三線)の監修者会議を24回(各分野3回)開催し、模造復元資料の候補作をリストアップした。また、復元品の国外発信に係る現地調査を実施し、復元制作から展示までを実施設計書としてまとめた。	一括交付金 (ソフト)
活動指標名			計画値	実績値
監修者会議の開催回数			-	24
推進状況	推進状況の判定根拠及び平成27年度取組の効果			
順調	平成27年度には、8分野の監修者会議を各3回延べ24回を開催した。模造復元を行うにあたり、蛍光X線分析やCTスキャン分析により木地構造や顔料分析等を行い、制作仕様を確認した。また、より効果的な復元資料の情報発信方法を調査するため、国外調査をドイツとオランダ等で行った。これらを踏まえ模造復元・発信のための実施設計を行い、文化財を後世へ引き継いでいく取組みを順調に実施した。			

様式1(主な取組)

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成28年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
琉球王国文化遺産集積・再興事業	152,695	分野毎の監修者会議を開催し、仕様の詳細についての専門家の意見を踏まえながら、実施設計に基づき8分野の模造復元の制作業務を開始する。また、展示発信業務の会場調整(米国)を行う。	一括交付金(ソフト)

(3) これまでの改善案の反映状況

平成27年度 of 取組改善案	反映状況
-	① 当事業の実施にあたり、多方面にわたる工芸品復元の制作管理体制の強化、記録保存管理、効果的な発信が必要である。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
-	-	-	-	-	-
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
-	-	-	-	-	-
状況説明	沖縄の貴重な文化財を後世に引き継いでいくことを目的に、戦災等により失われた8分野の工芸品制作の手わざを復元する。より高度な復元を行うため、平成27年度には、8分野の監修者会議を各3回延べ24回を開催した。また、復元資料の蛍光X線分析やCTスキャン分析により木地構造や顔料分析等を行い、制作仕様を確認した。				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境の変化)

<p>○内部要因</p> <ul style="list-style-type: none"> ・王国時代の手わざを示す資料について科学分析を行い新たな知見が得られた。それらを反映するための制作に要する期間について専門委員から意見があり、現計画を検証する必要がある。 ・調査研究に基づいた資料の集積を記録保存し、各分野の模造復元に係る基本情報と制作工程を記録保存し、後世のための基礎資料とする必要がある。 ・復元した資料を国内外への効果的な発信を行うことにより、琉球王国文化をブランド化し、文化観光拠点として沖縄をアピールする必要がある。
<p>○外部環境の変化</p>

様式1(主な取組)

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

- ・制作作品が8分野にわたりかつ専門性が求められるため、監修者と制作者の情報共有等の連携を強化する等、管理体制に万全を期す必要がある。
- ・文化財を後世に残すための効果的な記録方法について検討を行う。
- ・琉球王国文化の効果的なプロモーションの手法について工夫が必要である。

4 取組の改善案(Action)

- ・戦災等により失われた8分野の工芸品制作のティーワジャ(手わざ)等、王国時代の至高の技を現代に再現させるため、個々の模造復元の制作管理体制の強化を図る。
- ・貴重な文化財を後世に残すため復元の作業工程を記録保存管理する。
- ・琉球王国文化遺産の成果をより効果的に発信する方法を調査する。